



弘大農学部同窓会会報

第 3 号

昭和59年3月15日 発行
発行 弘前大学農学部同窓会
TEL. 0172-36-2111
振替 盛岡4-564番
印刷 (株) 笹 軽印刷

——母校創立30周年記念にむけて——

弘前大学農学部同窓会諸兄へのお願い

日本列島、北から南まで記録的に雪の多い1、2月でしたが、いよいよ3月、北国弘前にも春がやってこようとしております。

しかるに、例年になく真冬が続き、連日降り続いた雪は今、まだ1メートルを越えており、各家庭での除排雪はまだしばらく続くことでしょう。

さて、本紙上からも、又、別便でも同窓生諸兄各位毎に、すでにお願ひしてあります我々弘前大学農学部同窓会の30周年記念の餽金のことについての再度のお願いの件であります。当会事務局調べによりますと、同窓会会員からの積極的餽金及び、同予定額の連絡のほか、激励をいただいている反面、全くまだ連絡をいただいている方もあり、2月末の中間とりまとめでは、予定予算額の1/3弱となっているようであります。

連絡の方法、或は時期的な御都合など、それぞれの事情は推察致しておりますが、明年

同窓会長 横山 宏

7月6日の記念式典及び、記念行事の実施に向けて、最終的な見通しに基づく決定を迫られる時期が近くなってまいりました。

これまででも、例えば餽金額の決定にあたって、青森県職員の同窓生の場合は職場を中心とした連絡をとり合っておりますし、又、同窓会支部内での連絡やら、卒業生同期を中心とした申し合わせ、等々、いろいろな活動を通して実効を期している例を聞き及んでおり感謝しております。

しかし、先に御願ひしてある目標額を達成し、ご通知してある予定の記念事業を計画通り実施する為にも目標に限りなく近づけたいと思っておりますので、いろいろ事業に対する意見やら、事情はあろうと思っておりますが、事務局まで御連絡をいただきたいと思ひます。

同窓生各位の深甚な理解を賜わり、早速に餽金に係る連絡をお願いする次第であります。

緊急対策会議報告

30周年記念事業着手の目度を立てるために、事業遂行の裏づけとなる餽金状況を調査致しました。餽金申込み期限を3月中としてお知らせしてありますが、2月21日現在の申金額（振込み額も含めて）並びに申込者数は次のとおりです。

申込み期限3月中を1カ月にひかえ、下記のような大変低い餽金状況です。去る2月25日にこのような状態を受けて、青森市において対策会議がもたれました。長時間にわたって検討致しましたが、当初計画どおりの事業を行うために、同窓生全員参加を呼びかけ、

計画事業の予算確保のための献金活動を行うことで一致しました。

献金申込み状況を少し詳しくお知らせ致しますと、最近10年間の卒業生の応募率が大変低く、9～12%となっております。この10年間に同窓生が50%占めていることはお知らせしたとおりですが、皆さんの応募状況が30周年記念事業の成否に重大な影響を与えることになると考えられます。

この3月が申込みの期間です。お金の振込み期限は昭和60年3月です。申込みだけでも忘れずに送り返して下さい。全員最低1口5,000円を、そして2口10,000円を目標に御協力を

お願い致します。

30周年記念事業献金 申込状況(2月21日現在)

学科	申込金額	申込口数	献金人 卒業生	同%
農学科	1,295,000	2,395,000	160/692	23
園化科	438,000	665,000	73/599	12
農工科	388,000	485,000	61/499	13
園芸科	220,000	240,000	32/305	10
合計	3,785,000		325/2,095	16



定年退官の御挨拶

農学部教授 高安一郎

同窓会報が創刊されて、それに退官の御挨拶を書かせて頂くのは私が最初のようなのです。幹事さんから寄稿を要請され恐縮しています。

弘大農学部同窓会も会員数が2千を超え、名簿により皆さんがそれぞれ各方面で活躍されている様子を拝見し、御同慶に堪えません。

ふりかえりますと私が弘前に来て29年余がいつの間にか過ぎました。今年で30回目の卒業生を送り出し、そして私も退官することになります。いろいろなことがありました。専攻学生と一緒に自転車で県内を一巡し、八戸まで見学旅行したこと、学務主任のときに最初の東北農ゼミ当番校としての仕事をお手伝いしたこと、収穫祭もありました。宿泊研修で十二湖、十和田湖、岳温泉などに行ったことなど、つぎつぎと回想されます。着任した時は私も30歳代で、学生諸君とは兄弟位の歳の差でした。そして毎年入って来るのは20歳から22～23歳の学生諸君ですから、いつまでも若かった頃のつもりで諸君に接することができます。教師というものゝ有難いところですが、けれども最近になって、時々学生諸君の方で歳の差を意識しているのか、一

歩退いてももの言っているらしいことに気がつき、「あゝ自分も歳をとっているのだな」と思い知らされ、一寸淋しくなることが多くなって来ました。

それはともかく、私自身は「わだつみ」世代で、私も同級生一同と卒業してすぐに軍隊の営門をくぐりました。そして多くの友人を戦場に失いました。またそのほかにも、今なら死なずにすむ筈の胸部疾患で、これまた相当数の級友を見送りました。私自身の所属する同窓会の名簿では私の年代のあたりで物故者の数が特に多いのです。それらの物故した級友は戦争か結核かどちらかで若くして世を去ったのでした。それが最近では成人病でボツボツ欠けはじめました。今まで1年おきに集まって居た同期会も、「これからは無理をしても毎年顔を見るために集まろう」と言うようになっています。

皆さんは平和な、そして医術の進歩した大変変な時代生きて居られる訳です。どうか、そういった時代の恩恵を存分に身に受けられ、勿論めいめい健康にも留意され、同期会や、各地方支部会の活動を基盤にして、

同窓会全体の結束を強め、会全体の力を充実させて頂きたいと思ひます。来年は学部も30周年を迎え、いろいろな記念事業の企画もあるようですが、今農業をとりまく情勢も厳しく、それと併行するかのように臨調がらみて大学、特に農学部をとりまく情勢も之亦決して

楽なものとは言えないように感じられます。どうか30周年を一つのステップとして一番大いに飛躍するよう、同窓会も側面から力を添えられますよう念願してやみません。

在任中皆さんから寄せられた御好意御支援誠に有難うございました。皆さんお元気で。

連載

農学部30年の歩み (2)

昭和40年代の弘前大学農学部で特筆すべきことは、農業工学科、園芸学科の2学科が増設され、さらに修士課程を持つ学部へ成長したことだと思ひます。建物も旧司団・旅団司令部・憲兵隊が次々と取壊しとなり、農学部新校舎建設工事が着々と進み、現在の農学部となる新旧交替のはげしい時でもありました。

これ以後入学の学生にとっては、門の前にあるロータリの意味も理解しないまま卒業した諸君も多いのではないのでしょうか。そういう意味においては、昔のおもかげを残すただ1つのものようです。まさに農学部敷地は「つわものどもが夢の跡」かもしれません。

全国の農学部を見わたせば、まだまだ小さい学部ではありますが、4学科18講座となり、学部としての体をなした極めて重要な時でした。それに伴い、この10年間に教官数もほぼ2倍、卒業生数は3倍、学部予算にいたっては実に4倍となり、高度経済成長期とあい

まって、我農学部においてもすさまじい成長の時でした。

しかし、学内においては、昭和44年の学園紛争がエスカレートし、本部封鎖、機動隊導入、岩岡問題等混迷した状態が続き、学園の民主化が叫ばれた時代でもあったように思ひます。



農学部10周年記念パーティより
昭和40年7月
(現在 農業水利ライシメータのある所)

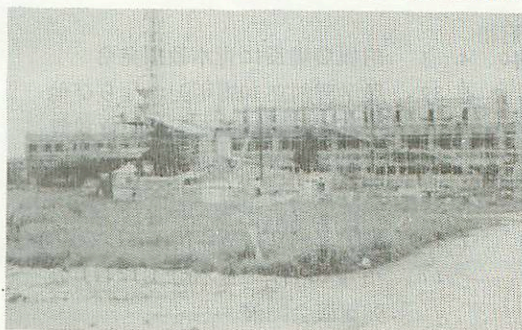
年表 (昭和40年～同49年まで)

昭和					
40.	4. 1	附属農場長に青木教授発令	3. 27	北溟寮竣工 (定員 230名)	
	5. 31	農学部創立10周年記念ならび他学部新設、竣工を祝し記念式典 (旧文理学部講堂)	4. 5	農業工学科増設 (4月1日適用)	
	7. 3	農学部創立10周年記念式 (農学部)	42.	3. 20	農学部新校舎第一期工事竣工
	7. 16	農学部創立10周年行事として弘前市 (16日)、金木町 (17日) 公開講演会開催		3. 28	農学専攻科 (園芸化学専攻) 設置名称変更 (農学専攻を園芸農学専攻に) を文部省へ申請
	17				
41	3. 9	農業工学科増設に伴い、学則の一部改正 (4月1日施行)		3. 31	附属農場に事務部設置
				4. 1	附属農場長に中山教授発令
				6. 1	農学部へ学科目「畜産学」増設

- | | | | |
|------------|------------------------------|-----------|--|
| 8. 25 | 東北・北海道地区大学農場協議会開催（弘前） | 4. 1 | 文部省令第19号により4学科17教室となる |
| 10. 2
4 | 文部省主催農場教育研究集会、大学農場協議会開催（弘前） | | 園芸化学科 園芸産物利用学、農産物利用学、生物化学、土壌学・肥料学 |
| 43. 3. 20 | 朋寮竣工（定員234名） | | 農 学 科 作物学、育種学、農業経済学、畜産学 |
| 44. 1. 20 | 農学部第二期（増築）工事竣工 | | 園 芸 学 科 果樹園芸学、蔬菜・花卉園芸学、植物病理学、応用昆虫学 |
| 1. 30 | 北鷹寮竣工（定員200名） | | 農業工学科 農業機械学・農業動力学、農業水리학、農地工学、農業造構・施設学 |
| 4. 1 | 附属農場長に佐々木教授発令 | | |
| 4. 1 | 園芸農学科を農学科と名称変更し園芸学科が増設 | | |
| 6. 10 | 園芸学科増設に伴い、学則の一部改正 | | |
| | 定員 必修 選択 合計 | | |
| | 園芸化学科 40 68 20 88 | | |
| | 農 学 科 25 28(A)32 80
(B)20 | | |
| | 園 芸 学 科 30 52 26 78 | | |
| | 農業工学科 40 67 20 87 | | |
| 9. 6 | 本部封鎖 | 7. 13 | 学科目から講座に改める |
| 9. 27 | 機動隊導入により本部封鎖解除 | 47. 2. 1 | 学生食堂（生協）竣工 |
| 10. 14 | 助手の教授会参加 | 8. 15 | 学生部長に佐々木教授発令 |
| 45. 4. 1 | 農学部分館が図書館へ統合 | 12. 20 | 総合温室新営工事竣工
実験室、研究室増築工事竣工 |
| 5. 27 | 農学部改革委員会設置 | 48. 3. 15 | 大学院農学研究科修了(第一期)4名 |
| 10. 6
7 | 第43回国立大学農水産関係学部長協議会を本学部にて開催 | 4. 27 | 農産物流通論講座増設 |
| 12. 10 | 農学部第三期（増築）工事竣工 | 49. 4. 1 | 大学院農学研究科に園芸学専攻増設 |
| 46. 3. 9 | 農学研究科（修士課程）設置に伴う規則改正 | 4. 23. | 農学研究科園芸学専攻設置による学則の一部改正 |
| 4. 1 | 本学大学院に農学研究科修士課程増設、農学専攻科廃止 | | 学生総定員 園芸化学専攻 16名
農学専攻 20名
園芸学専攻 8名
農業工学専攻 20名 |
| 4. 1 | 附属農場長に森教授発令 | 6.6~7 | 第25回新制大学農学部協議会開催 |



旧農学部本館解体跡
写真奥ロータリ（昭和43年冬）



農学部第1期工事（昭和41年夏）
手前井戸と気象観測施設

数字で見る農学部のおつきかわり

年度	学部長名	教官数	職員数	卒業生数	学部予算	農場予算 冊	農場収入	備考
昭和								
40.	森 田 昇	27	58	38 (3)	13,595	5,029	5,993	
41.	〃	29	58	42 (3)	14,626	6,217	9,173	農業工学科設置
42.	〃	31	59	43 (5)	20,501	7,522	10,246	
43.	〃	33	63	44 (2)	24,208	8,643	11,259	
44.	望 月 武 雄	38	65	97 (2)	32,617	10,575	12,083	園芸学科設置
45.	〃	45	67	120 (4)	38,077	11,252	12,787	
46.	〃	48	64	97 (0)	39,047	12,159	13,058	
47.	〃	49	67	122 (4)	40,065	13,238	12,906	
48.	中 山 林三郎	50	65	112 (9)	49,005	13,339	13,658	
49.	〃	50	64	132 (8)	52,262	15,823	16,515	

注1) 教官・職員数は農場を含む。

注2) 卒業生数カッコ内は専攻・修士課程卒業数。

教室だより

＜育種学講座＞

当講座が公認されたのは昭和34年度であるが、30年にはすでに独立していた。初代の中山林三郎教授は51年3月に停年退官されるまで約20年間の長きにわたり、講座の整備発展に大変努力されたことは周知の事実です。前号でお知らせしたように、中山名誉教授は当教室のみならず、農学部や弘前大学の充実発展に貢献した功績により、昨春勲三等旭日中綬賞を受賞されたことは大慶の至りです。先生は相変わらずお元気で研究を継続されております。

41年に斎藤健一助教授、46年に武田和義助手が着任し、5年間で、初めて教官3名の完全講座となったが、51年度以降再び教官は2名となった。56年4月武田和義助教授が岡山大学農業生物研究所（倉敷市）へ赴任し、同年6月に新関稔助教授が北大から着任し、斎藤教授とともに教室運営に携わっている。教室所属事務員の異動は度々で、現在は船水かつ江事務官です。

33年卒業の阿保俊一、白沢由吉、板垣源太郎の3氏を筆頭に93名(59年卒を含む)の諸氏

が教室を巣立ち、北海道から関西の各地で活躍しているが、有為な板垣氏が他界されたことは悲しいことでした。大多数の方は農業あるいはその関連職種に従事しているが、医者、歯医者に転向された異色の方もいる。県内在住者は40名で県外の52名を下回っているものの、青森県職員21名の占める割合が大きく、その活躍は注目に価する。

農学コースの中では女子学生に人気(?)のある教室となり、55年以降は毎年女子全員(ただし1名)が当教室に所属するようになったことも特筆すべきことである。

教室での研究分野は拡大し、近年関心の高まったバイオテクノロジー関係の実験比重が大きくなった。リンゴ、インゲンマメ、イネを対象とする実験も継続しているが、その内容は10年一昔前と較べてかなり変化した。

最後に教室ならびに農学部の同窓生各位のますますの御発展と御健康を祈念して止みません。

(K.S記)

＜土壌学・肥料学講座＞

当教室は文理学部農学科時代からあり、卒業生は59年3月卒の学生を加えると185名位になります。当教室初代の教授で本学部の創設・発展及び青森県農業特に開拓地の農業振興に多大の功績を残された、田町以信男先生が55年4月、83才でお亡くなりになりました。先生はコーヒーとタバコを好まれ、特にタバコは眠る時以外は口から離さないと言われるほどでした。それが禍いしたのかも知れません。学会等でお会いし、お話をうかがえなくなり非常に残念に思っております。

望月先生は49年に退官され、青森にお住いです。青森市教育委員長をつとめられました。56年に胆のうを患われましたが、回復後は以前にもましてお元気になられ、農業大学校で土壌学を講義され、また青森県の土壌を概説した著書も出されました。

現在の教授花田先生は、本学部教官52名中最も在職期間が長く、本教室創設以来です。従って、当教室の卒業生で田町先生、望月先生を知らない人はいても花田先生を知らない人はいないということになります。先生は髪こそ短かくされましたが、以前と変わらず実験しており、現在はリング園土壌の諸要因と生産性との関係の解明に主力を注いでおります。

助教授の斉藤はリンゴの窒素栄養を研究し

ていますが、あまりパツとしないようです。

57年4月より名古屋大学出身の青山正和氏が助手となられ、49年以來2名だった教官が8年ぶりに3人となりました。彼は精力的に堆肥の腐熟過程及び施与効果を研究しております。

教室の現員は教官3、大学院生1、学部学生11、研究生1、文部省留学生1の計17名です。狭い実験室にこれだけの人数ですから一斉に実験することは不可能なのですが、幸い(?)学生は時差出勤してくれるので何とかやっている状態です。留学生の鈴木厚生君はブラジル、サンタカタリーナ州(ブラジル唯一のリンゴ生産地)出身でリング園土壌の研究のため来日したもので、57年10月より59年3月までいます。非常に熱心に研究しており、また現在の日本人よりも日本人らしいという点で感心させられます。昨年12月に長男が弘前で誕生し、帰国後は果樹試験場への就職が決っております。

当教室の卒業生の多くは農業関係に就職しており、地元志向の強いのが特徴です。最近普及員になる場合が多いようです。

同窓の皆様のご活躍を念じつつ、今後当教室を卒業する学生を暖かくむかえて下さいますようお願いいたします。(H・S記)

彫 塑 の テ ー マ を 募 集

30周年記念事業の一つである、弘前大学農学部のシンボルにふさわしい彫塑のテーマを募集致します。

製作は弘前大学教育学部美術科の先生に依頼する計画となっています。多数の御提案を希望しています。締切期限は4月末日と致します。なお、テーマの最終決定は製作者と役員会で行なうこととなります。

新たに迎える正会員

農学科 (25名)

農学コース(17名)

佐々木 均(作物)未定
 中野 尚欣(〃)自営
 西川 康之(〃)千葉県庁
 島山 克也(〃)岩手県庁
 吉村 理明(〃)深川市役所
 久保 勝照(育種)北海道庁改良普及員
 小林 渡(〃)青森県庁
 田畑 作衛(〃)未定
 塚本 秀樹(〃)本学研究生
 対馬 美子(〃)未定
 長沢 雅美(〃)北日本セキスイハイム
 藤原 憲夫(〃)東北農政局
 石川 哲哉(畜産)明治ケンコーハム
 斎藤 知明(〃)本学大学院
 斎藤 幸彦(〃)青森県庁
 鈴木 猛(〃)雪印乳業
 田村 辰(〃)北陸農政局

農業経済コース(8名)

大友 明彦(流通)イトーヨーカドー
 小山内潤哉(〃)青森県農協中央会
 佐藤 善亮(〃)警視庁
 時田 明(〃)ホクレン農協連合会
 松原 正昭(〃)北海道厚真町農協
 大友 和雄(経営)ホクレン農協連合会
 金谷 光輝(〃)本学研究生
 黒崎 宏(〃)北海道開発庁開発局

園芸化学科(38名)

石戸谷英子(園産)栄研化学
 太田 和孝(〃)ラグノおささき
 熊谷 太(〃)白石食品工業
 小林 俊貴(〃)未定
 高木 康成(〃)未定
 長谷川玲子(〃)未定
 福原 鋭(〃)オービック
 山下 悟(〃)大館市役所

山田 春美(園産)大館市役所臨時職員
 石戸谷貴子(園産)東鳩東京製菓
 稲垣ゆきえ(〃)ティーディーシー
 岩淵 言美(〃)未定
 小野 嘉久(〃)本学研究生
 斎藤 勝章(〃)福山醸造
 澤村 浩(〃)東北伊藤ハム
 畑島 武夫(〃)日糧製パン
 増田 龍一(〃)ヤクルト本社
 森本 幹男(〃)北海道庁農務部
 渡辺加奈子(〃)北海道ニチイ
 岩谷 聡(生化)ヤマモト食品
 川村 弘一(〃)本学研究生
 桜庭 良文(〃)新化食品
 佐藤 健一(〃)本学大学院
 清藤 文仁(〃)本学大学院
 高橋 信之(〃)山崎製パン
 高松 真理(〃)日本ビジネスコンサルタント
 水沼 隼人(〃)仙波糖化工業
 吉原 牧人(〃)未定
 岩本 和人(土肥)福島リコピー販売
 叶 修(〃)青葉化成
 北林 英夫(〃)未定
 佐藤 智子(〃)未定
 伝農和比古(〃)秋田県経済連
 鳥塚 智(〃)滋賀県庁
 箱石 健(〃)聴構生
 吹田 峰康(〃)自営
 村上 直人(〃)本学研究生
 室田 京子(〃)未定

農業工学科(36名)

農業機械コース(16名)

阿部 高之(機械)青年海外協力隊
 井畑 勝博(〃)青森県庁
 太田 孝規(〃)ビー・エス・シー
 岡田 一秀(〃)未定
 長内 克哉(〃)青森リコー販売
 小野 求志(〃)ばんけい観光

戸沢 徹(機械) 富士通東北システム
エンジニアリング
浜谷 淳(〃) 青森リコー販売
三上 博(〃) 未定
民部田政彦(〃) 岩手県岩手町役場
木津 暢(動力) MSK東急機械
熊谷 泰治(〃) 青森県庁
小山 浩二(〃) 栖崎産業
竹内 弘毅(〃) 日立入間電子
成田 幸悦(〃) 大阪有線放送社
藤村 明智(〃) 岩手県経済連

農業土木コース(20名)

石垣 利浩(水利) 宮城県庁
小蔵 和浩(〃) 石川県土地改良事業団体連合会
川崎 義郎(〃) 石川県庁
高井 和洋(〃) 青森県庁
沼尾 誠(〃) 未定
山田 淳(〃) 自営(リンゴ)
工藤 勉(農地) 青森県庁
桑田 勝美(〃) 未定
佐々木秀文(〃) 阿部工業
佐藤 昭市(〃) 久保田建設
宮脇 英樹(〃) 未定
山田 久幸(〃) 北海道開発局
横山 厚司(〃) 岩手県警
相坂 広(造施) 青森県庁
一戸 善光(〃) 自営(リンゴ)
井上 等史(〃) 静岡県庁
鏡谷 聖(〃) 鴻池組(土木)
猿田 隆(〃) 北海道庁
鈴木 敦(〃) 福島県庁
鈴木 実(〃) 愛知県庁

園芸学科(31名)

小田島知典(果樹) 岩手県庁
工藤 智(〃) 青森県庁
駒井 秋浩(〃) 本学聴講生
平井 秀樹(〃) 自営
藤井 明彦(〃) 青森県庁
藤盛 元(〃) 自営
三上 勝義(〃) 自宅
伊藤 伸哉(蔬花) 未定

及川 俊代(蔬花) 未定
小笠原 忠(〃) 青森県鱈ヶ沢町役場
熊谷 吉則(〃) 芝茂造園建設
郡 裕道(〃) 電発環境緑化センター
鈴木 優子(〃) 東京都建設局
対馬 安宏(〃) 未定
東山 一弘(〃) 札幌市役所
荒井 治喜(病理) 自営
岩田 資生(〃) 愛知県庁
大橋 裕美(〃) 日本プロセス系列
沖津 正博(〃) 農業自営
斎藤 修(〃) ブリストル・マイヤーズ
斎藤 秀樹(〃) 青森県庁
高杉 真美(〃) 未定
箱石 郁子(〃) 手定
福島 康高(〃) 自営
斎藤 力(昆虫) 青森県庁
白土 一哉(〃) 自宅
菅原 英範(〃) 本学研究生
高橋 公(〃) ジャパンシステム
高橋日登志(〃) 北海道農業改良普及員
長沼 俊也(〃) 岩手県流通センター熊長本店
前 真司(〃) 富士通F・I・P

大学院

農学科(1名)

渡部 元博(流通) 農業自営

園芸化学科(4名)

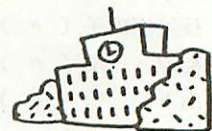
大須 篤(園産) 静岡聖光学院中・高等学校
伊藤 修(生化) 明治ケンコーハム
山崎 賀久(〃) 青森県庁
山口 紀彦(土肥) 青森県庁

農業工学科(1名)

伊藤 義夫(機械) 農業自営

園芸学科(1名)

永瀬 淳(昆虫) 本学研究生



支部だより

青森県南部支部開催



昭和59年1月14、15の両日、全国共通一次試験会場のうち八戸会場の運営が農学部の方担となり、教官全員が八戸市に借出される事となった。この機会を補え、同窓会県南部支部会（総会員数およそ180名）を、試験終了日の15日、八戸市（八戸グランドパレス）において開催し、会員相互および教官との久しぶりの語らいの日にと計画した。

その結果、同窓会始まって以来とも言うべ

き出席者（会員63名、教官24名）を得た。支部長 福井 正（植病 S30年度卒）、本会の世話役 久保 惇氏（畜産 S34年度卒）、および学部長 佐々木先生の挨拶後、短かい時間のうちにも、同窓生および教官との話題は尽きず、お互い楽しい一時を過ごし、今後の南部支部の発展を祈りながら盛会のうちにおひらきとなった。

関東（東京）支部

東京支部の会員名簿が完成しました。東京周辺の関東一円を含んで総数350名に及んでおります。特別会員に 森田 昇元農学部長、矢橋農吾 元農地工学助教授（現千葉大）のお二人がなっております。名簿の題字が森田先生によって紙面をかざって記念しております。日本の中心にあって、東京支部が一步一步しっかりと前進していくことを期待いたします。

誠実であり
日新又日新

（題字供・森田先生筆）

支部結成の動きをお知らせ致します。宮城県支部と青森県下北支部の2つが結成に向けて活動しております。前者は宮城県全域を1支部としており、後者は、これまで青森県南部支部に入っていました。地域的に遠隔地にあつて支部活動に参加できないための分離結成となります。一日も早い結成を楽しみにしております。

弔 事

渡 川 武 (38年畜産卒)



事 務 局 か ら

※ 同窓会専用の住所、勤務先変更連絡の料金受取人払葉書の使用は、差出有効期間を確認の上、投函するようお願い致します。

※ 例年おこなわれる卒業式当日の役員会は延期になりました。30周年記念事業醸金申込み期限は3月末までとなっていますので、この申込み状況をとりまとめ、5月に記念行事最終見通しの会議を開催する予定を立てております。これと役員会を兼ねることになりました。日取りが決まり次第、役員の方へ御通知致しますので、御諒承下さい。

※ 名簿整理簡略化に向けて、コンピューターの導入を検討しております。同窓生の数が多くなると、いずれは導入しなければならない時はきますが、名簿担当の角野幹事が準備しております。技術的には導入が全く

支障ない状況ですが、要は数拾万円の予算の余裕の問題となっております。

今年の農学部志望状況

農 学 科	定 員	志望者	倍 率
農学コース	15	47	3.1
経済コース	10	124	12.4
園芸化学科	40	168	4.2
農業工学科			
機械コース	15	95	6.3
土木コース	25	87	3.5
園芸学科	30	67	2.2

なお、参考までに59年度の年間授業料は252,000円、入学金100,000円となっております。皆さんの頃と比べていかがですか。

◆ 編集後記 ◆

啓蟄も過ぎ、こよみの上では冬ごもりの虫もはい出すというのに、今冬は雪が多くその気配さえ感じられません。農学部気象観測施設における現在の積雪量は126cmです。

農学部同窓会諸兄におかれましては、いかにお過ごしでしょうか。

前号事務局からのお願い欄で掲載いたしました農学部関係写真、資料などの提供につきまして、会員の方から農学部学友会誌“オリザ”やその当時の写真などを提供いただきました。記念事業最大の企画であります。(仮称)

「弘前大学農学部30年の歩み」(篠邊三郎教授委員長)作成のため同窓会としては全面協力体制をしいておりますので、今後共さらに御協力の程お願い申し上げます。

早速ですが昭和31, 32, 39, 40, 41, 42, 54, 56年3月の卒業記念写真をお持ちの方がございましたら是非お貸しください。さらに会誌についての御意見、御要望がございましたらどしどし事務局までお寄せください。